

令和元年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(泉が丘地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課



令和元年度 第9回

まちづくり懇談会《泉が丘地区》実施結果報告書

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《泉が丘地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 令和元年12月18日（水）午後7時00分～午後8時30分
- 2 開催場所 泉が丘地域コミュニティセンター
- 3 参加者数 22人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，東市民活動センター所長，都市基盤保全センター所長，広報広聴課長

5 懇談内容

(1) 地域代表あいさつ

泉が丘地区まちづくり推進協議会

(2) 市長あいさつ

(3) 地域代表意見

No.	テーマ	所管課
1	空き家問題とそれに伴う地域の事案について	生活安心課 生活衛生課
2	泉が丘地域の将来のまちづくりについて	交通政策課 LRT企画課 LRT整備課 都市計画課

(4) 自由討議

No.	要望	所管課
1	駅東地区の将来像について	駅東口整備室 都市計画課
2	高齢者の免許返納について	交通政策課 高齢福祉課

(5) 来賓挨拶

市議会議員 保坂 栄次 氏

(6) 市長謝辞

## ■地域代表意見 1（要旨）

テーマ	空き家問題とそれに伴う地域の事案について
-----	----------------------

宇都宮市の空き家対策と、このことに関して私の地域の空き家で起きた事案について伺う。

空き家問題については、防犯上の問題、火災の問題、草木の駆除等、さまざまな社会問題になっている。私の住んでいる越戸北自治会では空き家にスズメバチが巣を作り、その駆除にあたり大変苦労した。

そこで増え続ける宇都宮市の空き家問題に対する市の現状分析や対応方針、さらには泉が丘地区の空き家の現状と対応、そして空き家に対する活用事例について伺う。

次に、越戸北自治会の空き家にスズメバチの巣があり、何とかしてほしいと近所の方から連絡を受けた。そこで、私はすぐに現場を確認し写真を撮り、スズメバチが威嚇している中、注意喚起の看板を作り現場に貼り付けた。そして、保健所生活衛生課に連絡し、駆除を依頼したが、駆除を行うのは空き家の持ち主であり、この空き家の関係者を探すまでに時間がかかるため、緊急性がない場合、駆除は10月になる可能性もあるとの説明があった。ここは児童の通学路になっているため、安全上、夏休中に駆除しないと危険だと考え、再度、保健所に依頼をして実情を理解してもらい、8月26日に駆除をしていただいた。

そこで伺う。緊急性とは誰がどのように決めているのか。また、スズメバチの巣の駆除費用は持ち主の負担となるとのことだが、空き家の持ち主を探している間に駆除の遅れが事故につながる恐れも考えられることから、事案の内容によっては市の予算で駆除が行えるような柔軟な対応ができないか。

最後に、安心安全なまちづくりのために、泉が丘地区は各地区の代表者がチーフとなり課題を解決しながらさらに地域を活性化したいと考えている。

回答	所管課：生活安心課，生活衛生課
----	-----------------

### 【市長】

「市の現状分析や対応方針について」であるが、本市では、空き家は増加傾向にあり、平成29年度に実施した「空き家実態調査」において、前回調査の平成25年度から約200戸増加した「4,831戸」となっている。そのうち、管理不全や危険な状態にある空き家「1,369戸」について、周辺へ及ぼす悪影響を勘案した上で、所有者等に対し指導・勧告等を行っている。

本市においては、このような空き家に適切に対応していくため、平成29年に策定した「宇都宮市空き家等対策計画」に基づき、「空き家を増やさない」、「管理が不全な空き家を解消する」、「空き家の有効活用の促進に取り組む」の3つの対応方針のもと、「空き家セミナー」の開催や「老朽危険空き家除却費補助金」、官民連携組織である「宇都宮空き家会議」

が行う「空き家を活用した集会所の整備支援」など、総合的に空き家対策に取り組んでいるところである。

次に、「泉が丘地区の空き家の現状と対応について」であるが、平成29年度の実態調査における泉が丘地区の空き家は「110戸」であり、そのうち、管理不全や危険な状態にある空き家「21戸」について、周辺へ及ぼす悪影響を勘案した上で、指導等を実施してきたところである。

また、本年度においては、今回ご意見いただいている案件を含め、本市に寄せられた相談が「6件」あり、そのうち、人が住んでいる事案と経過観察となる事案を除いた「1件」について、周辺に危険を及ぼすスズメバチの巣を駆除するため対応してきたところである。

「空き家に対する活用事例について」は、「宇都宮空き家会議」が住民の合意形成支援や改修補助などの支援を行い、「三の沢北自治会」や「東峰西自治会」において、空き家が「地域の集会所」として整備されたほか、「戸祭地区」においては、「子ども食堂」として活用されているところである。

次に、「スズメバチの巣の駆除について」であるが、スズメバチなど害虫の駆除にあたっては、土地や家屋の所有者等の責任における適正管理と自主防除を基本としているところである。

しかしながら、空き家等が危険な状態にあり、これを放置すると近隣住民の生命や身体に被害を及ぼすおそれがある場合には、「宇都宮市空き家等の適正管理及び有効活用に関する条例」に基づき、本市において危険を回避するための緊急措置を講ずることができることとしている。また、緊急措置を講じたときに要した費用の請求は、空き家等の所有者に対してすることになる。

今回の事案においては、8月8日に相談を受け、直後から現地を確認し、所有者等の調査を進めていたところ、所有者や相続人の特定が困難な空き家であることが判明した。

そのような中、8月23日にはスズメバチの活動が活発化してきたことを確認し、空き家の隣が通学路であること、小中学校の夏休みが終了間近となっていたことなどから、本市において総合的に緊急措置事案と判断し、小中学校始業式前の8月26日にスズメバチの巣の撤去を実施したところである。

今後とも、空き家について、まずは、所有者等による適正管理と自主防除を基本としつつ、市民の生命、身体等に危険が及ぶ可能性がある場合には、本市としても柔軟に対応していくので、地域の皆様には、引き続き情報提供をお願いしたい。

## ■地域代表意見 2（要旨）

テーマ	泉が丘地域の将来のまちづくりについて
-----	--------------------

現在宇都宮市では、車中心の社会から高齢化社会や環境問題にも対応できる車と公共交通が共存した社会への転換を図っていくために、様々な対策を打ち出し実行へと移している状況にある。その代表的なものとしてこれからの人口減少や新たな都市活動に対応した「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成や、それらの拠点を結ぶための交通手段（公共交通）「LRT」や「デマンドタクシー」などが挙げられる。

私たち泉が丘地区も例外なく少子高齢化の波の中にあり、これからの生活に不安や心配を抱えている方もいると聞いている。

そこで、現在宇都宮市が進めているネットワーク型コンパクトシティの形成や公共交通対策について、具体的な内容と進捗状況、またこの泉が丘地域におけるその効果について説明をお願いしたい。

回答	所管課：交通政策課，LRT企画課，LRT整備課，都市計画課
----	-------------------------------

### 【市長】

本市においては、人口減少や超高齢社会においても、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、中心部の都市拠点や各地域に設けた地域拠点が、鉄道やLRT、バスなどの交通ネットワークで結ばれ、将来にわたって持続的に発展できる「ネットワーク型コンパクトシティ」を目指している。

ネットワーク型コンパクトシティ形成に関する具体的な内容と進捗状況についてであるが、「ネットワーク型コンパクトシティ」の実現に向けて、2050年を見通した長期的なまちづくり構想として、平成27年3月に「ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン」を策定し、都市全体を見渡した観点から、都市拠点・地域拠点の形成や、拠点間を結ぶ軸となる幹線交通など目指すべき将来都市構造を位置付けたところである。

このビジョンの具体化に向けて、拠点形成を推進するため、平成29年3月に「宇都宮市立地適正化計画」等を策定し、中心部や駅周辺などの市内10カ所に医療・福祉、子育て支援、商業などの生活に便利な施設を誘導する「都市機能誘導区域」を定めるとともに、地区市民センター周辺などの7カ所に市街化調整区域の地域拠点を定め、公共交通を使いながら、安心して便利に生活を送ることができるまちづくりに取り組んでいる。

ネットワーク型コンパクトシティ形成に関する泉が丘地区における効果についてであるが、泉が丘地区については、「ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン」において、中心部と役割分担を図りながら、日常生活に必要な各種の機能を備える「都市拠点圏域」として位置づけており、本市道路ネットワークの骨格となる内環状線を構成する国道4号から西側のエリアに、都市機能を誘導する区域を設定し、都市機能に対する立

地補助などの誘導策を実施しながら、スーパーや病院、子育て支援等の利便施設などの誘導・充実に取り組んでいる。

また、幹線バス路線である泉が丘通り沿いに、居住を誘導する区域を設定し、マイホーム取得補助などの誘導策を実施しながら、居住の誘導などに取り組み、より利便性が高く、暮らしやすい環境を維持していけるようなまちづくりに取り組んでいるところである。

公共交通を使いながら、安心して便利に生活を送ることができるこれらのエリアにおいて、地域特性に応じた都市機能や居住を誘導し、病院や買い物など、さまざまな都市のサービスを受けやすくすることにより、市民の生活の質を高め、将来にわたり暮らしやすさが持続できるまちを目指してまいりたいと考えている。

次に、公共交通についてであるが、本市では、ネットワーク型コンパクトシティの形成を支えるため、鉄道やLRTを基軸として、幹線・支線からなるバス路線、郊外部などを面的にカバーする地域内交通などの交通手段が効果的・効率的に連携した、誰もが利用しやすい公共交通ネットワークの構築を目指しているところである。

その構築にあたっては、現在、駅東側のLRTの整備を着実に進めるとともに、駅西側のLRTの事業化に向けた検討を進めているところであり、また、LRTの整備と併せて、拠点間を結ぶ幹線バスの充実やLRTと接続する支線バスの新設など、バス路線再編の実施に向けて、バス事業者とともに検討を進めているところである。

泉が丘地区については、JR宇都宮駅やLRTの停留場が徒歩や自転車で移動可能な範囲にあり、また、「駅西口から泉が丘通りを経由して平出工業団地方面に向かうバス路線」が1日70本以上運行されるとともに、「東図書館方面から越戸通りを経由して御幸小学校方面に向かうバス路線」が1日46本運行されるなど、公共交通が充実したエリアであると認識している。

こうした中、平成30年に泉が丘地区において開催した「ネットワーク型コンパクトシティのまちづくり」に関する地区別説明会において、「泉が丘通りを運行するバス路線」の駅東口発着への付替えによる速達性の向上や現在21時台までとなっている運行時間帯の拡大、「東図書館方面から越戸通りを経由してベルモールに向かうバス路線」の新設などを将来の公共交通ネットワークイメージとして地域の皆様にお示ししたところであり、これらの取組によって、自動車を運転しなくても、公共交通と徒歩により便利で快適に生活できるまちが実現すると考えている。

また、本市では、日常生活の足として、地域住民が主体となってデマンドタクシーなどによる地域内交通の導入を推進しているところであり、泉が丘地区においても、道路幅が狭くバスが運行できないエリアが存在していることから、新たな生活交通の導入の要請があれば、地域と一体となって検討してまいりたい。

今後とも、便利で暮らしやすく、市内外の多くの人や企業に選ばれ、100年先も持続可能なネットワーク型コンパクトシティの実現に取り組んでいく。

## ■自由討議（要旨）

<b>発言 1</b>	<b>駅東地区の将来像について</b>
-------------	---------------------

泉が丘地区は、泉が丘小・中学校を中心に、西はＪＲ宇都宮駅、東は平出工業団地や国道新４号バイパス、更には清原工業団地に挟まれる地域に位置し、今後、東口再開発やＬＲＴ開業によってますます発展が見込まれ、宇都宮市の将来を占う重要な地区になっている。

また、この泉が丘地区は小中学校と地域コミュニティセンター、総合型地域スポーツクラブが同一敷地内に隣接し一体的に運営されているという、恵まれた教育・文化・スポーツ環境があり、新たに住まいを探す人にも人気の地域の一つと聞いている。

このような泉が丘地区が、市の目指すネットワーク型コンパクトシティの拠点の一つとして発展していくためには、やはり、いかに周辺地域と連携し、魅力を補完し合っていけるかが重要だと思う。

そこで伺います。先程、地域代表意見におきまして、ネットワーク型コンパクトシティの概要を説明いただいたが、私からは、そのネットワーク型コンパクトシティの形成に伴い、泉が丘地区を含めた平石、陽東、峰、石井、今泉などの駅東地区全体が、それぞれどのような特色を持った魅力ある地区に変化していくのか、具体的に教えてほしい。

<b>回答</b>	<b>所管課：駅東口整備室，都市計画課</b>
-----------	-------------------------

### 【市長】

泉が丘地区は、幹線道路や幹線バス路線の沿線に位置し、スーパーや病院などの生活に便利な様々な施設が数多く立地するなど、非常に利便性が高く、大変住みやすい地区であると認識している。

泉が丘地区を含めた、平石、陽東、峰、石井、今泉などの駅東地区については、商業地域から住宅地、豊かな田園地域まで多様な特色を有するとともに、本市が目指す「ネットワーク型コンパクトシティ」の要となる東西基幹公共交通であるＬＲＴが整備される予定であり、今後、ますます利便性や地域のポテンシャルが高まる地区と考えており、ＬＲＴ整備を契機として、市民・事業者・行政が一体となって、それぞれの地域の個性や魅力を活かしながら沿線のまちづくりを進めることが、地域経済の活性化や交流人口の増加など、地区全体の更なる発展につながると認識している。

先程、地域代表意見２でご説明した「立地適正化計画」に基づき、ＬＲＴ沿線において、市民や事業者とともに、ＬＲＴと一体となったまちづくりを具体的に進めていくため、平成３０年５月に、優先整備区間である「ＪＲ宇都宮駅東側～テクノポリスセンター地区」の約１２ｋｍについて、「ＬＲＴ沿線の土地利用方針」を策定し、沿線の各区間及び停留場周辺などの地域特性に応じた、今後の土地利用の基本的な考え方を明らかにしたところである。

具体的には、JR宇都宮駅東口～国道4号の区間においては、特に宇都宮駅東口地区において、広域的な交流や賑わい創出につながる2,000人収容可能なコンベンション施設や飲食・物販等の商業機能などの導入を図るなど、県都の玄関口にふさわしい高次な都市機能や居住の誘導・集積を進めていく。

この宇都宮駅東口地区は、コンベンション施設の他にも、医療・福祉等の充実も図っており、将来起こりやすい病気を発症前に診断する先制医療や脳神経外科疾患を専門的に治療する病院の導入など、市民の健康で豊かな生活が支えられる施設の導入を進めているところである。

また、国道4号及び産業通り～市街化区域境においては、買い物に便利な環境で歩いて暮らせる快適な生活が送れるよう、ベルモール周辺などの交通結節点については、医療・福祉、子育て支援、商業などの都市機能を誘導・集積する「都市機能誘導区域」として、また、平石地区市民センター周辺については、日常生活に必要なスーパー等の生活利便機能を誘導する「地域拠点区域」として指定を行い、医療・福祉、子育て支援、商業などの生活利便機能や居住の誘導・集積を進めていく。

さらに、新4号国道や主要地方道宇都宮向田線が交差する(仮称)平出町停留場周辺においては、LRT整備と併せて、自動車や地域内交通等との乗り継ぎ施設であるトランジットセンターの整備が予定されている。

LRT沿線など交通の要所には、デジタルサイネージを設置して、タッチパネルを操作することで、色々な情報を得ることができ、利用者の利便機能を高めていく。

また、これまでご説明したとおり、高次な都市機能や生活利便機能、居住の誘導・集積を進めていくため、補助制度などの誘導施策を実施していることから、引き続き、企業や関係団体等に周知を行いながら、民間機能の更なる誘導に取り組んでいく。

今後とも、駅東地区のそれぞれの地域が持つ個性や魅力、資源を活かすとともに、公共交通を使いながら、生活に必要なまちの機能を補い合うことで、相乗効果で地域全体の活性化や魅力を高められるよう、ネットワーク型コンパクトシティのまちづくりに取り組んでいく。

<b>発言 2</b>	<b>高齢者の免許返納について</b>
-------------	---------------------

高齢者専用バス乗車券を交付していることは熟知している。

この免許返納については、各市町で違いがあり、他市で行っているような「高齢者のバス無料化」を本市でも取組んでほしい。

高齢者のバスを無料化にすることで、免許返納者も増えるのではないか。

<b>回答</b>	<b>所管課：交通政策課，高齢福祉課</b>
-----------	------------------------

**【市長】**

現在、ご存知のように、70歳以上の方を対象に、5,000円分のバスカードを1,000円で購入できる「高齢者外出支援事業」を実施しているところである。

高齢者のバスの無料化については、移動手段である公共交通が整備されていないと、不便になることから、まずは、公共交通の整備を第一に考え、JR宇都宮駅東口にLRTが整備された際には、すべての公共交通が利用できるICカードの導入など、利便性の向上を図っていきたい。